

ごあいさつ



会員・組合員・ご利用者の皆様には、平素より東北労働金庫をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

2016年度は、第5期中期経営計画（2015年度～2017年度）の中間年度として、「3つの主要テーマ（運動性・収益性・事業性）」と「3つの改善（営業推進・財務基盤・事務効率）」を着実に実行し、「会員と共に創る新たなステージ」に向けた盤石な経営基盤を確立するため、商品・サービスの充実と財務基盤の強化に努めてまいりました。

中でも、融資制度拡充の一環として「無担保住宅ローンの融資限度額の拡大」を実施し、また、奨学資金の返済負担が社会問題化している教育関連については「教育ローンの融資期間延長」と「奨学金借換え融資制度の新設」を行い、働く人の夢と共感を創造する協同組織の福祉金融機関として社会的役割を果たす取り組みを強化してまいりました。

また、皆様が生涯に亘り、安心・安全にゆとりある生活を送っていただけるよう、「ろうきん iDeCo（個人型年金プラン）」ならびに「生命保険窓販」の取り扱いを開始しております。

業容につきましては、融資は増加目標に届きませんでしたが、預金は目標を上回るなど、「2017年度までに預貸和3兆円超金融機関」をめざし、更なる業容拡大を図ってまいります。あらためて皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

2017年度は、第5期中期経営計画の最終年度として、当金庫の最重要課題である「経営改善策」を確実に実施し、皆様の負託に応えるために「持続可能なビジネスモデル」構築に向け、各種課題の整理および対応策を進めてまいります。

現在、日本の経済は、日銀によるマイナス金利政策の影響が本格的に現れ始めており、世界経済の様々な影響を受ける中、経済の好循環を確立していくことが課題となっております。

また、東北地方においても、全国に先駆けて少子高齢化や人口減少による構造的変化が進むことが想定されており、将来に亘る持続的な発展と成長に向けた道筋づくりが重要となっております。

当金庫は、このような環境変化を的確に捉えながら、労働金庫の存在意義を実感していただける福祉金融機関をめざし、会員・組合員・ご利用者の様々なニーズに応え、皆様のライフプランにきめ細やかに寄り添ってまいり所存です。役職員一丸となって、皆様と一体となった取り組みを進めてまいりますので、今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

ここに2017年3月期ディスクロージャー誌を作成いたしました。皆様方に当金庫をご理解いただけるよう、事業内容・業績・今後の取り組みなどを紹介しておりますので、ご一読いただければ幸いに存じます。

2017年7月

理事長 影山 道幸